

# 学校保健

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00058154">https://doi.org/10.24517/00058154</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 学校保健

葛山 友紀

共同研究者 河田 史宝（金沢大学）

## 1. 伝統文化教育を進めるに当たって

学校保健では平成26年度より、ESDの視点に立ち、「コミュニケーションを行う力」と「他者と協力する態度」の育成を重点的に行ってきた。グローバル化する社会において、異なった考え方や生き方を持った人々と関わり合い、協力し合いながら生きていくためには、他者理解を深めるとともに、自己の心の健康を保ち生活を送ろうとする力が必要である。そのため「ストレスマネジメント」と自他尊重のコミュニケーションである「アサーション」について保健指導を実施してきた。

平成29年度より伝統文化教育を進めるに当たり、「日本人の心に関すること」を重点的に取り組みたいと考えた。昨年度は日本の精神文化と言われる茶道の「茶の心」を題材とした。茶道の精神性を示す千利休の言葉『和敬清寂』や客人に対する準備について知ること、「相手を敬い平等に接すること」や「相手を思いやる心」が大切であると生徒は認識できていた。

今年度は、題材を「和菓子」に変え、実施する。和菓子は大切な行事や祝いの際に用いられており、想いを具現化したコミュニケーションツールとなっている。江戸時代から続く和菓子の贈答を通して、想いを伝えてきた日本の伝統文化を尊重するとともに、他者の気持ちを考えて、自己の気持ちを行動で表現できる生徒の育成を目指したい。

## 2. 能力・態度の育成に当たって

### (1) 学校全体として育成する資質・能力について

学校全体として育成する資質・能力のうち、学校保健では特に「①日本の伝統や文化に関する理解」を重視した。和菓子に関する知識と理解を深めることが、想いを大切にしてきた日本の伝統文化を知ることにつながる。

和菓子の贈答は非言語コミュニケーションの一種である。非言語コミュニケーションは言語的な情報を補うコミュニケーション手段となっており、意思伝達の様々な面をカバーしている。そのため非言語的なメッセージを捉えることは、他者とより良い関係を維持する上で重要な要素となる。非言語コミュニケーションの重要性を知るとともに、気持ちを表現する方法を考えさせ、それを実践する意識を持たせたい。

### (2) 関連・連携を図った教科等について

関連・連携を図ることができる教科は、「思いやり」と「和菓子」を扱うものとなる。

「思いやり」に関しては、体育科での「柔道」（自他共栄の精神を取り扱う）と国語科での「盆土産」、道徳の「心に寄りそう」「愛」と関連・連携を図ることができる。

「和菓子」に関しては、家庭科での「衣食住の生活」、数学での「1次関数」（事例で使われる和菓子）と関連・連携を図ることができる。

### 3. 成果と課題

#### (1) 分析方法

本研究では、2年生4クラス(142人)に実施した1時間の授業から成果を検証した。検証の手順は、まず授業のまとめで設問1「実生活において、想いを行動で伝えるには、どんな場面でどんな行動を心がけたいと思いますか」設問2「授業を受けての感想」を生徒に自由記述させ、それをテキストファイル(Excel)の1行に1件ずつ自由記述を入力した。その後、入力ミスや不自然な表現、表記の異なる同義語について、内容を変えずに編集を行った。編集後にKH Coder(Ver.3)を使用し、テキストから自動的に語を取り出し、総抽出語数(分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数)、異なり語数(何種類の語が含まれていたかを示す数)頻出語を確認した上で、それらの語の共起関係を探った。最後に視覚化された語の共起ネットワーク図から文章全体を把握し考察した。

#### (2) 結果

##### ①語の抽出と頻出語の確認

ア、設問1「実生活において、想いを行動で伝えるには、どんな場面でどんな行動を心がけたいと思いますか」についての自由記述

生徒から得られた142件の自由記述データを分析対象とした。KH Coderを用いて前処理を行い、文章の単純集計を行った結果、420の文が確認された。また、総抽出語数は6,595、異なり語数は664あった。さらに、助詞や助動詞などどのような文章にでもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される語として2,448語(異なり語数513)が抽出された。これらの頻出語の内の上位30語とその出現頻度を表1に示す。

表1 設問1の頻出

順位	語	頻出	順位	語	頻出	順位	語	頻出
1	思う	141	11	挨拶	33	21	目上	23
2	伝える	125	12	渡す	32	22	態度	22
3	気持ち	102	13	笑顔	29	23	和菓子	22
4	相手	92	14	言葉	28	24	表情	21
5	感謝	72	15	自分	27	25	目	20
6	人	59	16	大切	27	26	気	19
7	行動	56	17	言う	26	27	見る	18
8	心がける	41	18	伝わる	26	28	込める	18
9	想い	40	19	ありがとう	25	29	お礼	14
10	場面	38	20	贈る	24	30	考える	14

イ、設問2「授業を受けての感想」についての自由記述

表2 設問2の頻出語

順位	語	頻出	順位	語	頻出	順位	語	頻出
1	思う	186	11	相手	53	21	今回	29
2	伝える	163	12	大切	43	22	文化	29
3	和菓子	136	13	自分	38	23	物	28
4	気持ち	126	14	考える	37	24	方法	28
5	想い	106	15	授業	36	25	心	25
6	贈る	83	16	渡す	36	26	込める	24
7	行動	79	17	伝わる	33	27	態度	23
8	言葉	75	18	場面	31	28	今日	21
9	分かる	75	19	知る	31	29	言う	19
10	人	55	20	感謝	29	30	色々	19



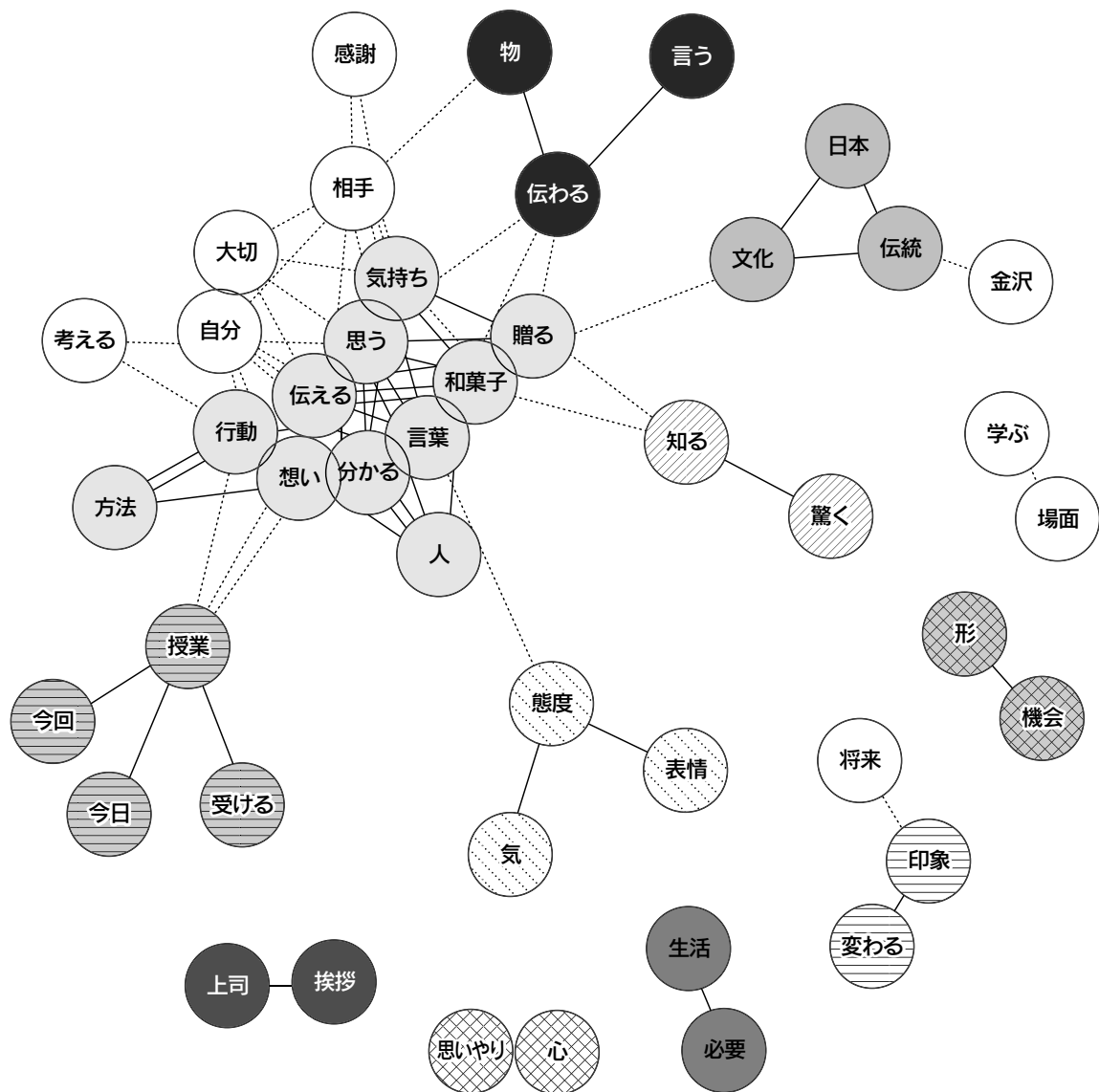


図2 設問2についての自由記述の共起ネットワーク

ア、設問1「実生活において、想いを行動で伝えるには、どんな場面でどんな行動を心がけたいと思いますか」

(ア) 感謝の気持ちを伝える、言葉・行動で伝える

図1の右側より、「気持ち」「心がける」「思う」「伝える」「感謝」「相手」「行動」の語がそれぞれ共起関連していることが分かる。生徒の記述には“相手に感謝を伝える場面で、表情や一つ一つの動きをすることで、想いを伝えたい”“自分の想いを行動で伝えるには、相手の気持ち、心情を考へて行動すればいい、言葉だけでなく行動をともなってやっていたらいい”“相手が不愉快にならないよう気をつけて、場面にあった行動をして、自分の気持ちをできるだけ伝えられるように心がけていきたい”“相手の気持ちを考えながら行動することを心がけたい”などがあった。

(イ) 礼儀や笑顔を大切にす、和菓子を贈る

図1の中央は、「目上」「渡す」「人」「笑顔」「和菓子」の語を中心にまとまりとなっている。生

徒の記述には“目上の人とかに対して敬語、礼儀を大切にする”“友達に何気ない時に笑顔で応答したり、挨拶をすることが大切”“相手に礼儀正しくふるまったり、和菓子を贈ることで敬意を表したり、丁寧な言葉遣いを心がけたい”“目上の人（上司など）や、日頃お世話になっている人（祖父母など）には、特に礼儀正しく何かを渡すなどして、感謝の気持ちを伝えたいと思う”“笑顔など、表情に気を配りたい”“お礼を言うときなど心を込めて話したい”などがあつた。

図1の右上側は、「渡す」ことに関連した語がまとまりとなっている。生徒の記述には“これからお世話になる人に感謝やよろしくお願いします、という想いを伝えるとき【中略】和菓子などを渡す時は、両手で、のしの方向などにも気をつけたい”“プリントもらう時は両手で受け取り、プリント渡す時も両手で”“表情が少し違うだけでも相手が受け取る印象に差が出る”など、日本の物の受け渡しの礼儀について書かれたものがあつた。

#### (ウ) 目を見て、明るく挨拶やお礼をする

図1の下側は、「挨拶」「お礼」に関する語がまとまりとなっている。生徒の記述には“ありがとうと伝えたいときには、相手の目を見て気持ちを込めて言いたい”“挨拶にしても、暗い顔だと相手が嫌な風に捉えてしまうかもしれないので、明るくすれば良い”“相手の目を見て、ちゃんと気持ちが伝わるように挨拶や、お礼をしなければいけないと思った”“お礼を伝える場面ではしっかり口と態度でありがとうという気持ちを伝える”など、挨拶やお礼をする際の態度について書かれたものがあつた。

#### (エ) 家事の手伝いをする

図1の上側の「日頃」「母」「家事」「手伝う」「色々」から、「母に日頃の感謝を伝えるために、家事を手伝う」ということが読み取れる。これらの語を含む記述には“洗濯物をたたんだり、掃除機をかけたり、家事の手伝いができる”“いつもありがとうという意味をこめて、色々なことを手伝ってあげたい、優しくしてあげたい”などがあつた。

#### (オ) その他

上記以外では、図1の左上側から左下側にかけて、「謝る時にお辞儀をしたい」「謝罪やお祝いの気持ちを伝える」「声のトーンや表情に気を配る」「敬語を使うことが大切」「顔に出す」「気持ちを表すのに大切だと分かった」といったまとまりがあつた。

### イ、設問2「授業を受けての感想」

#### (ア) 想いを行動で伝えることについて

図2の左上側には、表2の頻出語上位10語が中心となって大きなまとまりを形成し、その語から他の語が共起していることが見て取れる。生徒の記述には“今回の授業を受けて想いを行動で伝える方法について知ることができた”“感謝の気持ちを伝えたりするのは大切だと思つた”“行動や見た目なども大切だということに気がついた”“相手の行動にどのような意味があるのか考えたい”“自分の想いとか気持ちをちゃんと伝えられるようになりたい”“言葉だけでは伝えきれない想いを、物も含めて伝えるのは大切”“言葉だけでなく色々な仕草や表情、声色を使って気持ちを伝える”“言葉の効果を大きくするために、何か行動するということも大切”“和菓子という物で想いを伝えることができるのに驚きました”などがあつた。

#### (イ) 日本の伝統文化・和菓子について

図2の右上側には、日本の伝統文化・和菓子に関連するまとまりがみられる。生徒の記述には“思いやりの心の大切さが日本金沢の伝統文化である和菓子を通して学ぶことができ良かつ

た” “金沢にはその場の雰囲気にあった和菓子を相手に贈ることで自分の気持ちを伝える伝統があることを初めて知った” “気持ちを形にした和菓子は石川、金沢の伝統文化とも言える” “和菓子を作っている方へのインタビューを聞いて、日本の心そのものだと思った” など、伝統文化の一つである和菓子の役割についての内容があった。

また“感謝・何らかの気持ちを伝える時に、和菓子を使いたい” “和菓子には、人と人とを繋ぎ、感謝などの気持ちを伝える役割もある、江戸時代からずっと続いている習慣だと知り、伝統の1つとして受け継いでいきたい” “国際的な文化が広がってきている今、日本の伝統文化を受け継ぎ、守ろうとしている人がいるという事にありがたみを感じた” “和菓子のみならず、日本の伝統文化や伝統的な工芸品にも、様々な想いが込められている、日本ならではの文化を大切にしていくとともに、沢山のの人に発信していくことが大切だ” など伝統文化の継承に関する記述もあった。

その他に、“和菓子は江戸時代、前田家から江戸にいる将軍に献上品として持っていくことから発展していきましたが今でも贈り物として使われているということが分かりました、金沢は前田家が将軍に目をつけられないために文芸にはげんでいたことにより贈り物をするという文化が強く根づいている地域、言葉だけでなく物や態度でも気持ちを伝えられるようにしたい” など他教科で学習したことを関連付けた記述もあった。

#### (ウ) その他

図2の右上側から「学んだことを色々な場面で活用したい」「機会があれば気持ちを形にしたい」「言い方で印象が変わる、将来のために覚えておきたい」「生活の中で必要」「思いやりの心」「上司に挨拶」などといったまとまりも見られた。

### (3) 考察・まとめ

#### ① 非言語コミュニケーションの理解について

自由記述の分析の結果、設問1「実生活において、想いを行動で伝えるには、どんな場面でどんな行動を心がけたいと思いますか」については、「感謝の気持ちを伝える、言葉・行動で伝える」「礼儀や笑顔を大切にする、和菓子を贈る」「目を見て、明るく挨拶やお礼をする」「家事の手伝いをする」の4つの記述のまとまりが見出された。また設問2「授業を受けての感想」からも想いを行動で伝えることに関するまとまりが見出され、日常生活において、自他の気持ちを大切に、言葉だけでなく行動でも想いを伝えたいという意識が高まったと考えられる。また行動内容については、礼儀や笑顔、目を見る、明るい挨拶やお礼、和菓子を贈るなど、具体的な方法が記述されていたため、非言語コミュニケーションについて多くの生徒が理解できたと思われる。その他、家事を手伝いたいという記述からは、授業と実生活を結び付けて、自分を支えてくれている人の存在を再確認し、感謝の気持ちを行動で伝える実践意識を高めることができたと考えられる。

生徒の記述の中には「気持ちを伝えるために物を渡したい」など、想いを形にしたいというものがいくつかあった。今回は伝統文化に関連した授業を実践するため、非言語で想いを伝える一つの方法として和菓子を取り上げ、形にして伝えることを活動に盛り込んだのだが、非言語コミュニケーションの大きな要素は、聴覚情報（声のトーンや話の早さなど）や視覚情報（表情や見た目など）と言われている。また中学生の実生活において、物を贈り合うことは頻繁にはないと思われる。よって非言語コミュニケーションについての知識の習得や重要性をより実感するためには、本時の前に、非言語コミュニケーションの要素や役割について触れる機会を設けるなどの改善が必要である。

## ②伝統文化に関する知識理解について

設問2「授業を受けての感想」から、日本の伝統文化・和菓子に関するまとまりが見出され、和菓子についての知識の習得が図られたと考えられる。また伝統文化の継承に関する記述もあった。よって資質・能力①「日本の伝統や文化に関する理解」と資質・能力③「文化の伝承・創造性への主体性など」を育成することができたと考える。

しかし1時間という短い授業の中で、取り扱うことができた内容は限られたため、知識や理解を深めるまでの活動には至っていない。普段どのような場面で和菓子を食べるか、どの程度生活の中で和菓子と触れる機会があるかなど、生徒が和菓子をどのようにとらえているのか、その実態を踏まえた授業にする必要があった。また江戸時代から和菓子が受け継がれている理由や、金沢の和菓子の発展について、さらに将来和菓子が日本の伝統文化として受け継がれていくかどうかについて、個人が考える時間や話し合いの時間を設け、意見を交わすことができれば、資質・能力③について、より育成できたのではないかと考える。

## ③その他

学校保健は教科ではないため、指導の機会が限られる。また指導内容は生活に直結しており、すぐに成果が出るものではない。そのため他教科との連携は不可欠であり、効果的に指導を継続するためには、カリキュラムマネジメントを行うとともに、評価の方法についても検討していく必要がある。



# 実践事例

学校保健 2 年

<p>授業者</p> <p style="text-align: center;">葛山 友紀</p>	<p>授業日</p> <p style="text-align: center;">1 1 月 2 3 日 (土)</p>
<p>授業クラス</p> <p style="text-align: center;">2 年 3 組</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">保健体育・国語・道徳・家庭・数学</p>
<p>授業内容</p> <p style="text-align: center;">和菓子を通して，想いを行動で伝える方法について考える。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>他者の気持ちを考えて，自己の気持ちを行動で表現する方法を知る。</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>① 日本の伝統や文化に関する理解</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度の授業の学習内容を確認する。（5分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他尊重のコミュニケーション方法（アサーション (assertion), 「DESCAL (デスクル) 法」) についての復習を行う。</li> <li>・ コミュニケーションには相手を気遣う思いやりの心が必要である。</li> </ul> </li> <li>2 同じ言葉でも態度が違う場合の相手の気持ちを考える。（3分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意思伝達の際は，非言語コミュニケーションにも目を向ける必要がある。</li> </ul> </li> <li>3 和菓子の文化について知る。（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちを形にして表現しているものが和菓子である。</li> <li>・ 江戸時代から和菓子の贈答が続いている。</li> <li>・ お店ではお客様の想いに沿ったものを提供している。</li> </ul> </li> <li>4 和菓子に込められた想いについて考え発表する。（22分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和菓子を贈る場面を設定し，贈る側，贈られる側の想いについて意見を出し合う。</li> </ul> </li> <li>5 実生活において，想いを行動で伝える方法について考え発表する。（10分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような場面でどのような行動をとりたいか考える。</li> </ul> </li> </ol>	